

<b>活動名</b>  陽だまり発！子どもの居場所づくり	<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 陽だまり
	<b>地域</b>	広島県東広島市
	<b>代表者</b>	代表理事 市川 マヤ
	<b>支援金額</b>	20 万円
<b>活動概要</b>		
<p>【目的】長期休暇中に小学生の居場所をつくり、普通の学校生活にはない体験活動を通して子どもの健やかな成長を図るとともに、保護者にとっては安心して働ける環境・育児疲れを休める環境をつくることを目的に、夏休み 8 回、春休み 3 回いずれも 9:30～15:30 で実施した。定員に対し応募は 2 倍弱で、今年も多く反響があった。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 宿題・午前中に高校生・大学生ボランティアの見守りのもと行った。</li> <li>② 昼食・11 回中 9 回は、一般ボランティアによる手作り昼食を提供した。</li> <li>③ 休憩時間・グラウンドを使用できる会場では、学生ボランティアと一緒に遊んだ。</li> <li>④ 体験活動・午後に実施。ものづくり体験 3 回、学生企画体験 8 回を行った。</li> </ol> <p>◆実施時期 【実施時期】7 月 28 日～8 月 25 日のうち 8 回、および 3 月 26 日～31 日のうち 3 回 【実施場所】下見福祉会館、西条中央生涯学習センター、寺西地域センター (いずれも東広島市西条町内の公共施設)</p> <p>◆参加人数 小学生 延べ 325 名 ボランティア 延べ 119 名(学生 96 名、一般 23 名) 臨時スタッフ 延べ 7 名 事務局スタッフ 延べ 11 名</p>		
参加総人員:462 名		



事前打合せ・企画を担う学生団体と事前打ち合わせ。事業の目的と当日の進行を確認します。



宿題・午前中は学生ボランティアの見守りのもと、宿題をしました。



体験活動・大学生企画によるバルーンアート体験。大学生のお姉さんが優しく教えてくれます。



調理ボランティア・大人ボランティアさんたちは昼食づくりを担当。「おいしかった～」と子どもたちに大好評でした。

## ◆実施に伴う効果

### ①小学生への効果

- ・ 普段の生活では接する機会の少ない高校生・大学生と一緒に過ごせたことは、子ども達にとって大きな喜びであった。一緒に遊んだり、話を聞いてもらったり、勉強を教えてもらったり、おんぶや抱っこをしてもらったり・大切にされた経験は、子ども達のこれからの人生の支えになると確信した。
- ・ 学校や学年が違って新しい出会いを楽しみ、友だちを作ることができた。子ども同士で教え合う姿も見られ、集団活動ならではの効果があった。
- ・ 子どもからは「いろんな人が大勢いて楽しかった」という感想が多く寄せられた。10代から70代まで多くのボランティアが関わったことで、多世代交流が実現した。核家族の多い子ども達にとって貴重な経験であった。

### ②大学生・高校生への効果

- ・ 保育士や教員など将来子ども関係の仕事に就きたい学生にとって、よい経験の場となった。
- ・ 高校生は、身近な目標である大学生の姿から様々な刺激を受けていた。
- ・ 大学生にとっては、企画から当日の進行までを任せられたことは、貴重な経験であった。

## ◆苦労した点

- ①会場となる施設をなかなか確保できず、非常に苦労した。子どもの使用を嫌がる、日数制限を設ける、地域の団体でないという理由で貸し渋るといったことが往々にしてあり、年々確保できる日数が減ってきている。東広島市西条地区には、子どもが安心して伸び伸びと過ごせる公共施設が少なく、大人の子どもの寛容度も低いと感じる。
- ②学生団体との日程調整にも苦労した。学生は8月初旬まで期末試験のため、依頼できる期間が限定されている。結果、諦めた企画もあった。また、主要メンバーが卒業すると衰退する団体もあり、新たな学生団体の開拓が必要となっている。
- ③学生団体によってモチベーションや責任感、力量に差があり、子どもを掌握しきれなかったり、時間内にプログラムを終えられない日があった。事前打ち合わせの際に、事業のねらいや注意点をしっかり伝えた上で、進行についてもっと詳細に打ち合わせる必要があった。

## ◆今後の課題・発展の方向性

- ①春休みに参加小学生を対象に実施したアンケートでは、9割を超える子どもが「楽しかった」「また参加したい」と答え、満足度が非常に高かった。実施回数はその年の予算や会場確保の状況によるが、次年度以降も継続していく。
- ②今回は助成金を得られたことで、参加費(1,000円)を抑えて実施することができた。多くの子ども達に参加してもらうために、今後も助成金にチャレンジしていきたい。
- ③「子どもの居場所づくり」事業に参加した子ども達が大きくなったとき、今度は学生ボランティアとして帰ってきてくれたらどんなに素晴らしいだろうと夢想している。そんな素敵な循環が生まれる地域づくりを目標としていきたい。

## ◆活動を終えての感想・意見等

子どもたちのアンケートを読むと、はしゃいだり、興奮したり、おしゃべりしたり、笑って遊んだりすることが普段の生活では少ないことが伺え、驚きと共に衝撃を受けました。研修等では、小学生が健やかに育つための3つの間、「空間」「時間」「仲間」が無くなってきていると聞いていましたが、今回の事業で正にそれを実感し、だからこそ何としてでも続けていこうと強く思いました。

この度は助成金をいただいたことで、安心して事業を実施することができました。ありがとうございました。いろいろな課題はありますが、この事業が地域の財産となるように、これからも地道に取り組んで参ります。